

平成 30 年(2018 年)イサザ資源の現況把握調査結果

亀甲武志・西森克浩・大山明彦・久米弘人・孝橋 賢一

1. 目 的

イサザは、琵琶湖漁業の重要な漁獲対象魚種であると同時に、資源量が大きく増減することが知られている。このため各生活史段階において、資源状態を評価しておくことは資源状態が変動した時に、その原因を検討し、対策を考える上で非常に有益である。そこで産卵、仔魚、稚魚にいたる各段階において目視または採捕調査を行った。

2. 方 法

4 月上旬から 7 月下旬にかけて、琵琶湖北湖の数か所において、イサザの生活史段階ごとに目視・採集調査を行った。すなわち潜水目視による保護親魚数および産卵床数、多層曳き網の 10 分間曳網による着底前の浮遊仔魚、小型沖曳き網による稚魚の採捕調査を実施し、各段階での資源状況を評価した。

3. 結 果

産卵調査

2018 年 4 月 23 日および 5 月 8 日に海津大崎地先において、湖岸距離 30m の観測測線 1 本当たりの保護親魚数および産卵床数を調査した。4 月 23 日は 85 尾、156 床、5 月 8 日は 7 尾、7 床の保護親魚および産卵床を確認できた。予備調査として海津大崎の水深 50cm 地点において約 30m の区間を調査したところ、4 月上旬にはイサザの産卵床を多数確認でき、5 月上旬まで産卵床を確認することができた。

仔魚採集調査

2018 年 5 月 25 日、6 月 7、28 日に海津大崎地先および塩津地先において多層曳網の

約 1.5 ノット 10 分間曳網による仔魚採捕を行った。5 月 25 日にはイサザ仔魚を 58 尾、6 月 7 日には 20 尾、6 月 28 日には 8 尾採捕できた。多くのイサザ仔魚は水温 10～20℃層で採捕され、調査後半になると、採捕尾数は減少した。

稚魚採集調査

2018 年 7 月 25 日に彦根沖および長浜沖の水深 20m で小型沖曳き網による採捕調査を実施したところ、1 曳網あたり平均約 207 尾採捕され、そのうち当歳魚は平均 192 尾であった。過去 10 年のデータを比較すると 2018 年の値は 2014 年に次ぐ高い値であった(図 1)。

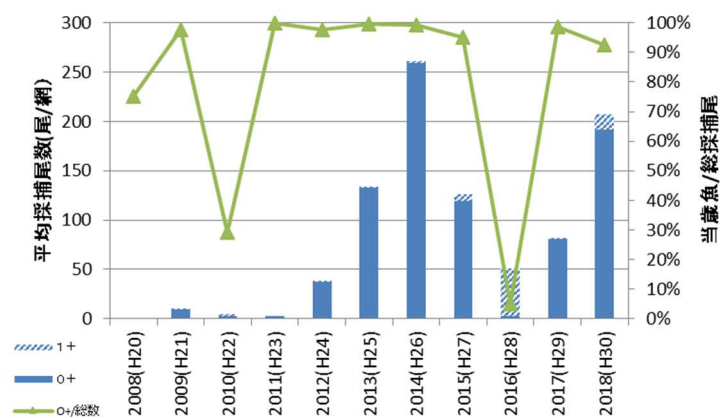


図 1 小型沖曳網によるイサザの採捕尾数の年変動